

2024年 北九州技術センター 安全衛生管理計画

日鉄エンジニアリング株式会社 北九州技術センター

【北九州技術センター安全衛生管理方針】
基本方針である①災害ゼロの追求、②安全文化の醸成、③健康で働きやすい職場の実現への取り組みにおいては、社員一人ひとりが日頃から『絶対に災害を発生させない』という強い決意の下で災害ゼロの追求に努めるとともに、自らの安全感性を高め、仲間を気づかい、励まし、注意喚起する相互啓発の意識を高め仲間を災害から守る安全文化の醸成が必要であります。
さらに、心とからだの健康維持増進活動に積極的に取り組み、働き方改革を推進し、健康で働きやすい職場の実現を目指していかねばなりません。
昨年を振り返ると、当センターの安全成績は重点目標である重大災害「ゼロ」、墜落災害「ゼロ」を達成しましたが、休業災害「ゼロ」については未達になりました。災害の内訳を見ますと、休業災害3件、不不休災害2件、軽処置災害15件と発生しており、一昨年の休業災害2件、不不休災害12件、軽処置災害13件から災害件数としては大きく減少したものの、休業災害は増加しました。休業災害・不不休災害において共通して挙げられる原因としては、油断、危険軽視、啞唖による不安全行動といった「人」に関する面が挙げられます。これらの災害を防ぐためには、「リスクアセスメント(RA)および危険予知(KY)で危険の洗い出し」を行い、「自らの安全感性を高めると共に仲間を守る」という強い信念の基、お互いに声を掛け合い、注意し合うことで、決められたことを確実に実行することが重要と言えます。
衛生面では、社会問題となっているメンタルヘルス不調による健康障害を防止するためのストレスチェックを継続し、また、体の健康に関しては、自律的な生活習慣改善を推進してきました。その活動の中で、生活習慣に起因した疾患の有所見者率^{※1}は、ここ数年、全社員60%前後(2021年:63%、2022年:62%、2023年:59%)となっています。この状況は近年大きな変化はなく、より一層の改善に向けて、一人ひとりが自律的な生活習慣の改善活動を引き続き推進する必要があると言えます。

【スローガン】 一人ひとりが危険の排除 しない!させない!危険な作業

Table with 5 columns: 重点管理方針, 重点活動事項, 対象, 実施部門(者), 実施時期.
1. 安全マネジメント力の強化
(1) 現場・管理部門は役割を明確にし、各々での安全マネジメント(PDCA)を実行推進
(2) 現場管理者(施工管理者、職長)は作業手順や作業要領を周知徹底、的確な作業指示を行うことで災害リスクを低減
(3) 現場管理者は正しい手順および適切な機器設備にて作業が行われているか自ら現地現物を点検確認し不適切な状況を排除、RKY記載事項の順守状況を点検
(4) 現場管理者は経験の浅い施工管理者・職長・作業員に対し不安全行動防止に対する安全感性向上教育・指導等を実行推進
(5) 指示・連絡・報告による一連の情報共有を円滑に行うことで管理統制を構築
2. 再発防止対策の確実な実行と点検
(1) 再発防止対策は「人」「物」「管理」に係る原因に対しそれぞれの確実な対策
(2) 災害防止対策は実行状況をフォローアップし改善がなされているかを点検確認
(3) 再発防止対策は広く情報共有しRA・KY活動にも展開浸透
3. 墜落転落・可動物との接触災害防止は重点課題とする
(1) 高所作業、可動物(重機、回転体等)使用は、重点検討事項として、工事計画の安全審査は必須。入念に災害防止対策を策定し漏れなく実施
(2) 墜落転落リスクが高い作業や設備において法令や構造規格に対し不備不適合が無いことを確認
(3) 墜落制止用器具(安全帯)の使用や観網等設置の基本ルールは根強い指導を継続
(4) 仮設設備の倒壊・崩壊対策(作業構台、架台、支保工等)
4. 新規入場者・未熟練者・高齢者の災害防止
(1) 管理者は安全パトロールや現場巡視にて作業配置・作業状況を確認し、注意喚起や安全指導を率先垂範
(2) 声掛けによる相互啓発活動を継続(箇所独自活動の活性化を促進)
5. 社員の健康維持・増進活動の推進
(1) 心とからだの健康維持増進活動に積極的に取組み健康で働きやすい職場を実現
(2) 働き方改革の推進(時間外労働の上限規制等、改正労働基準法の遵守)
6. 海外派遣・出張者の安全衛生の確保
(1) 海外勤務者に対する安全と健康管理に関する支援
7. 重点管理方針項目の確実な実施
(1) 現場安全パトロールおよび期間行事を通し、年間重点管理方針項目の実施状況を確認し、確実な実施を支援・推進する。